

b) D洞窟

D洞窟はカグラコウモリが出産・哺育場所及び冬期の休眠場所として利用していた。D洞窟は航空機の離発着方向からは真横に位置し、滑走路の中心から約230m離れている。

航空機の離発着に伴う振動は、A洞窟の項で述べたとおりすぐに減衰し、D洞窟へは伝播しないと予測された。

航空機の離発着に伴う騒音については、D洞窟の洞口が滑走路の中心から約230mの距離にあり洞口付近での騒音は85~90dB(A)と予測された。現空港近くのNo.77洞窟において実施された航空機騒音の伝播状況調査では、洞口で騒音が約98dB(A)の時、洞口からの光が届くような約13m奥の場所では約73dB(A)であった。また、洞口からの光が届かないような屈曲部の奥の洞口から約23mの場所では約28dB(A)であった。D洞窟では主に洞口からの光が届かないような屈曲部の奥が小型コウモリ類に利用されている(図-6.12.1.2(41))。先に述べた騒音の伝播状況調査の結果から、D洞窟においても洞口付近の騒音は小型コウモリ類の利用する場所まで伝播しないと考えられる。以上のことから、航空機の離発着に伴う騒音・振動に起因してD洞窟を利用する小型コウモリ類の生息状況が変化することはないと予測される。

D洞窟

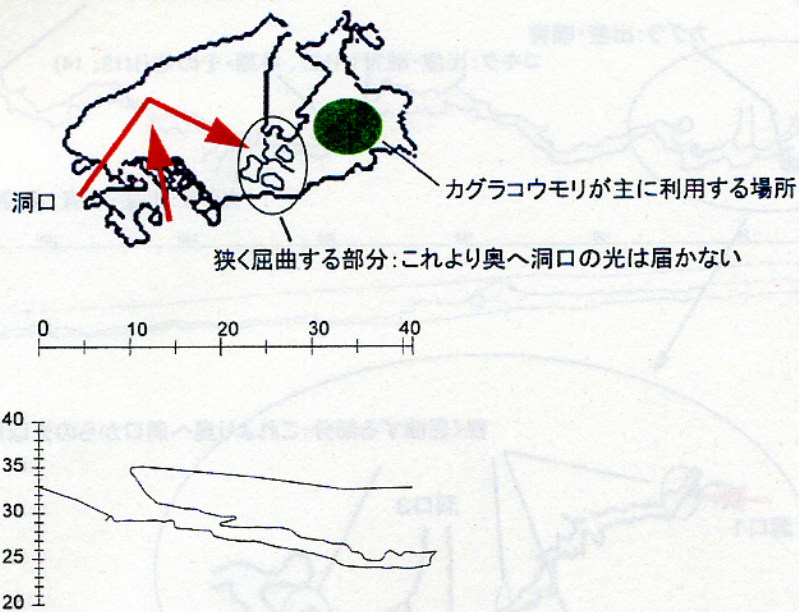


図-6.12.1.2(41) D洞窟の状況